

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やかた

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100062		
法人名	コンフォートライフ合同会社		
事業所名	グループホーム やかた		
所在地	〒026-0024 釜石市大町3-9-16		
自己評価作成日	令和2年9月17日	評価結果市町村受理日	令和2年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が地元釜石で楽しく穏やかに暮らしていただけるよう「ほっと一息ぬくもりのあるやかた～一日一笑～」を介護理念に掲げ、職員間の報連相や関係性をより密にするため、おひたし(怒らない、否定しない、助ける、指示する)を加え日々業務を行っております。市街中心部に位置し、付近に商店、小学校等があることから立地を生かし、必要に応じて利用者と散歩や買い物に出かけたり、週2回食材の買い出し、毎週月曜日から金曜日午後の夕方、スクールガード(見守り隊)として地域小学生の下校時間に合わせ下校様子の見守りを行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

市街地の中心部に立地し、1階は宿泊4室を備えた小規模多機能ホーム、2階が認知症対応型デイサービス(現在1名が通所)も含めたグループホームになっている。全職員が1階と2階を兼務しており、生活領域を別にしながらも、職員同士の連携のもと、利用者相互の繋がりを大切にしている。地域と日常的に交流しているが、現在は新型コロナウイルス感染予防のため自粛している。町内会の活動が復活してきており、状況を見ながら交流を再開することとしている。ホームでは、企画・広報、レクリエーション、防災、調理等の委員会を設け、利用者本位の取り組み目標や年間計画を立て、評価、反省を加えながら運営に取り組んでいる。コロナ禍で外出が制限される中、利用者が楽しみながら身体機能を維持出来るような様々な行事やレクリエーションを企画、実施しており、利用者は介護理念の「一日10笑」を実践する職員に支えられ、明るい雰囲気のもとで安心して日々を送っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年10月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やかた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りで介護理念と目標を復唱し共有して実践するようにするに心掛けている	経営理念をもとに定めたホームの介護理念「ほっと一息ぬくもりのあるやかた～一日十笑」を具体的に実践するため、昨年、職員皆で話し合い、行動目標を「報連相」と結び付け、「おひたし・怒らない・否定しない・助ける・指示する」とし、サービス提供場面での実践の基本としている。施設長(管理者)や介護支援専門員は、ミーティングや申し送りなどの場で、利用者との関わりの中で行動目標が実践できているか常に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	保育園園児や小学校児童が学年ごとに定期的に劇や歌、遊戯を披露に来所。また放課後スクールガード(見守り隊)を実施している。定期的に東部地区センター会議に出席し代表が地区で役員をしている。	代表者(施設長)が町内会の役員をしていることもあり、地域の行事に積極的に参加している。地域の保育園児や小学生が定期的に来訪し、利用者と交流してくれる。また、近隣を始め地域の方々も時折顔を見せ、お茶を飲みながら利用者と談笑している。利用者の中には、小学生の下校時を見守るスクールガードに参加している人もいる。新型コロナ感染予防のため地域との交流を自粛してきたが、地域の活動復活に合わせ、状況を見ながら交流を再開したいとしている。介護支援専門員が9月に「認知症サポーター養成講座」で小学3年生に認知症について分かりやすく説明するなど、認知症の知見を活かし、地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症利用者について報告や相談を行い理解や支援の方法をお伝えしている。地域の小学校に出向き認知症サポーター養成講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議で有識者、行政、利用者や家族、職員も参加し多方面から報告や意見があり介護職員も参加し報告している。現在はコロナウィルス感染拡大防止のため書面報告となっている。	本年2月以来、4回の会議は全て書面による会議となっている。10月末の会議からは会議方式を再開することとしている。委員からは、事業報告に対策や対処をどのようにしたか結果を記載すること、職員の活カアップのための方策を検討することなど、積極的に意見や提言を頂いている。委員の拡充に継続的に取り組みたいとしている。	委員の拡充が難しい場合は、運営に関連するテーマを設定し、テーマに係るゲストをオブザーバーに招き、議論を活性化するための工夫も期待される。

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やかた

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連絡を密に取り、情報を提供し協力関係を築くように取り組んでいる	施設長や介護支援専門員は、市の高齢福祉課や地域包括支援センターに出向き、運営状況の報告や制度に関する情報交換を行っている。特に入所希望者や待機者等、利用者に関する情報の収集や提供を行っており、協力関係は円滑である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束が行われている利用者はなし。定期的に身体拘束適正化のための対策を検討する委員会と身体拘束研修を行っている。	「身体的拘束等の適正化のための指針」によりホーム内に施設長、介護支援専門員、リーダー2人による適正化対策の検討委員会を設置している。週1回のミーティングの際、身体拘束のない介護サービスについて、申し合わせや確認を行っている。職員は、行動制限等、スピーチロックになりそうな場面では、理由を丁寧に説明し理解してもらうよう努めている。権利擁護も含め身体拘束に関する研修に力を入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を行い防止に努めている。現在、施設内で虐待は行われていないが、虐待を発見した場合には行政へ迅速に通報するように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている方がいることからミーティング等で職員には説明を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族には契約締結時、詳細を説明し理解していただくよう努めている。締結以降も疑問点がありましたらその都度対応している		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やかた

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者と家族代表に参加頂き意見や要望を伺い必要があれば運営に反映させている。	利用者から暮らし方の要望を引き出すよう配慮している。コロナ禍で家族の来訪を制限しており、意見や要望を聞く機会が減っているが、直接電話で必要な連絡を取っており、その際、要望等を確認している。利用者と職員と家族の三者の間のコミュニケーションが円滑にいくことに力を入れており、ホームの広報「やかた便り」を3ヵ月毎に発行し、職員のコメントや行事の様子、利用者の暮らしぶりを家族に伝えている。	利用者1人1人の1ヵ月の生活の様子を、それぞれの家族に職員自筆のお便りでお知らせするなど、家族との連携を一層深める取り組みを工夫することにより、意見、要望等を得る機会を増やすことが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週一度全体ミーティングにおいて連絡事項や職員から意見提案を聞き改善できるものは反映させている	介護支援専門員を中心に、何でも話せる雰囲気づくりに努めており、毎週行われるミーティングや毎日の申し送りノートにより、職員から意見や提案が積極的に出される。この9月で開設丸9年を経過し、設備点検や修理の要望が増えて来ている。また、新人職員に対しては、介護支援専門員が個人面談を行うなど気配りをしながら、介護サービス業務への意欲の向上や技術の習得に向け支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度、夏季休暇等を導入し職員のやりがいや意欲、働きやすいよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は積極的に参加しミーティング後に報告会を行っている。また、施設内研修にて職員全体で知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修や介護イベントを通じてネットワーク作り活動を行い取り組みを行っている。現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため交流を見合わせている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回訪問時などにおいて、ご本人の思い(困っていることや不安なこと)を傾聴している。一度ではなく何度もアセスメントを行い対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回訪問時などにおいて、ご家族の困っていることや不安なことを傾聴している。一度ではなく何度もアセスメントを行い対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回訪問時などにおいて本人と家族のアセスメントを通して必要としている支援について聞き取りや提案をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のストレングスに焦点をあて介護される一方の立場におかず、生活の中で可能な限り動作を自身で行っていただくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急時以外にもご家族には連絡を行い、お互いの思いを尊重しながら本人と家族の絆は大切であることは認識し業務を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が入居された場合、同意をいただければ面会や外出をすることや電話にて連絡をとるよう利用者、ご家族に働きかけている。	知人、友人の他、町内会代表の運営推進委員の口利きで近隣の方々がよく来訪してくれていたが、コロナ感染予防のため、現在は減少している。小規模多機能ホームの利用者に顔見知りの人が多く、一緒に行事に参加したり、買い物に出掛けたりしている。理美容室の方が月1回カットにきてくれ、お馴染みさんになっている。また通学路の見守りで小学生とも顔馴染みになっている。震災で昔からの馴染みの場所や思い出の地を失ってしまった利用者が少ない。	

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、場合によっては利用者の都合に合わせて席替えを行うようにして孤立しないようにしている。共有空間以外にもベンチを設け、親密な利用者同士の空間も作り上げるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院や施設入所された方は定期的に関係機関、家族と連絡をとり相談に乗るようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや希望、ストレングスを把握するようにしている。認知症が進行されている場合には過去の経歴などを把握し本人本位を検討している	自分の思いや希望を意思表示できる利用者は3人程度で、意思疎通が難しい人が多くなってきている。本人の行動、仕草、表情、さらには家族から生活歴等の情報を得ながら、全体像を職員で話し合い、本人の暮らし方への思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通して本人の過去や経歴を聞き取り把握している。また家族からも聞き取りを行い意向の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日のスケジュールや過ごし方、起床時間や特性を把握するようにし安定した生活を送っていただくように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日常生活や様子について週1回カンファレンスを開催しそれぞれの意見やアイデアを集い反映させるように努めている。	介護計画は、3か月、6か月を基本に現状とかみ合っていないところがないか、計画作成担当者の介護支援専門員が、利用者毎にパソコンに記録しているケア記録等をもとに職員と話し合い、適時に計画を変更している。特に食事や排泄に関し変化がないか留意している。計画を変更する際は、家族からの意見や意向も活かすようにしている。職員からは、食事を摂りやすいスプーンの選択や転倒防止のためのテーブルと椅子の位置変更などケアサービスに関する具体的なアイデアが多く出される。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やかた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケア記録と保管し、毎日の申送り、連絡ノート、週1回カンファレンスを通して職員間で情報を共有して定期的に介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望時、職員同行のもと近所の商店へ買い物や美容室に行っている。喫煙者は屋外で喫煙してもらい購入時には近くの商店まで行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的(1か月~2か月)に一度地域にある美容室から訪問していただき利用者の髪をカットしていただいている。防災訓練を行いながら町内会との連携を確認している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院と訪問診療を利用されている利用者があり、家族本人の希望に合わせて治療を定期的に受けられるように支援している	ホーム利用前からのかかりつけ医の利用者もいるが、多くはホームの協力医を定期受診しており、コロナ禍で職員が同行している。訪問診療受診は1名となっている。訪問看護ステーションと契約し、派遣看護師から週1回利用者の健康チェックや健康管理の指導を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回外部訪問看護ステーションが施設に訪問していることから、緊急時のみならず連絡報告を行い連携し、必要時には協力医に報告または受診を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者の情報を記録した介護サマリーを医療機関へ提出している。入院時にも定期的に医療相談室を連携を取り情報交換に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルケア及び看取りに関する指針や重度化した場合における指針に同意書をいただきご本人とご家族の思いを確認している。通院が困難の場合には訪問診療と連携をとり看取りケアを行っている。	協力医や訪問看護ステーションとの間で看取りに向けた連携体制を確立しており、現在まで7名の看取り介護を経験している。利用開始時に、重度化、看取り、それぞれについて、ホームとして対応できることを指針により家族に説明し、同意を得ており、状況の変化に応じて家族等と適時に話し合いを持つようにしている。介護支援専門員を中心にエンゼルケアも含め、ターミナルケアについての研修を行い、看取り支援に対する共通理解に努めており、看取り経験のある職員も増えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや外部研修、当施設看護師から処置方法を学び実践できるように心がけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年上半期、下半期年2回避難訓練を地域住民、消防にご協力いただきながら行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため見合わせている。	小規模多機能ホームと合同で年2回の避難訓練(うち1回は夜間想定訓練)を計画していたが、コロナ禍のため実施出来ず、11月以降に予定している。近隣の方々は、東日本大震災の経験上、防災意識が高く、訓練に協力的で、例年6、7の方が協力してくれる。グループホームが2階にあるため、非常階段や非常はしごを使った避難方法に神経を使っている。非常食、非常用備品も用意している。	1階、2階で協力して、非常時に備える体制をとりながら、「防災委員会」で計画的に消防訓練や自主訓練を実施しており評価される。グループホームの居住が2階であることから、毎月、リハビリも兼ねて利用者に避難経路を歩行してもらうなど、繰り返し「ミニ避難訓練」を行うことも期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、利用者の経歴などを考慮して職業名や役職名で対応を行うことや誇りを失わないよう呼び方を工夫したりしている	利用者のキャリアにより、先生や看護師さん等、職名や役職で呼び、誇りやプライドを失わないよう支援している。看護師だった人はバイタルチェックを手伝ってくれる。居室への入室はノックし、衣類の整理等、私物に触れる際は、了解をもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定していただくよう働きかけていて利用者が自身の思っていることや感じていることを傾聴しながら対応している		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やかた

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れについて例えば本人のペースに合わせた起床時間や就寝時間、外出希望であれば外出をおこなうなど対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1か月～2か月に一度、訪問美容室が来所されカットを行っている。希望があれば本人行きつけや希望の美容院まで行かれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれによる食事形態、嗜好を把握し提供している。できるだけ自身で食べていただくよう声掛けや介助を行っている。配膳、食器洗いと茶碗拭きを行っていただいている利用者もいる	職員で構成する「調理委員会」で1ヶ月分の献立メニューを作成し、毎週2回(火・金)、食材を購入し、調理専門スタッフが昼食、夕食を用意している。委員会では、旬の食材を使い季節感のある食事の提供を心がけ、メニューを工夫している。火曜日は利用者のリクエストにより好みのもをメニューに取り上げており、焼き魚類が好評である。職員も一緒に食事をしており、和やかで楽しい食事になっている。3名程の利用者が配膳、後片付け等、出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事10割摂取を目標としていることから一人一人に合わせた食事形態、水分形態を職員、医療機関と相談しながら決定し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声掛けを行いご本人が行うか職員による一部介助により口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が可能な場合には、できるだけトイレにて排泄を行うよう促しを行い、必要時見守りまたは一部介助を行っている。	現在、日中は、全員が誘導によりトイレを使用している。リハビリパンツやリハビリパンツにパット等、本人の状態に合わせて着用してもらい、歩行介助や着脱介助を行っている。夜間は、ポータブルトイレを利用する人もいるが、声がけ誘導でトイレに立つ人が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事をなるべく多く提供し、整腸剤や下剤を服薬しないよう心がけている。朝のラジオ体操を毎日行っている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やかた

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴日や入浴時間は限られていることからできるだけ本人の希望に沿うように入浴を行っている。ADL低下が著しい方には特浴を使用して安全に入浴を行っている。	週2回、時間帯を限定せず、要望により時間調整しながら一人20分程度入浴してもらっている。特浴設備があり、3名が利用している。職員二人体制で着脱と入浴の介助を分担して行い、異性介助は要望により交代している。職員は、利用者が1対1の会話を楽しみながら、寛いで入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に応じて仮眠を取っていただいている。生活空間においてテレビや仏壇等個人的な私物を持ち込んで頂き安心して暮らしていただけるような環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の服薬管理と確認を行い、服薬による副作用など利用者の体調に常に把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近所へ食料品や趣味で使用するもの材料など買い物を定期的に行っている。掃除、洗濯者を干すたむ、食器洗い拭きなど利用者の生活歴や力に合わせ手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	平日に行っているスクールガード(見守り隊)や通院などご家族と外出を行っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出は難しくなっている	コロナ禍ではあるが、天気の良い日は、皆で近くの公園まで20分くらい散歩に出かけている。「スクールガード」に出ている利用者は使命感とやりがいを感じており、子ども達との触れ合いを喜んでいる。感染予防に留意しながら、外出の機会を増やしたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は預り金として事務所にて保管している。利用者の希望や必要品があれば、職員と一緒に購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合には施設から電話をしたり個人の携帯電話にて連絡を取っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やかた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間において不快や混乱を招かないよう清潔感を保つようになっている。見た目に限らずにおいにも気を配り施設内を対応している。	2台の大きなテーブルが置かれ、コの字の明るく落ち着いたリビングで、死角になる居室はない。利用者が混乱しないよう、毎朝、リビングや廊下等、共用空間の掃除、整理整頓を行っている。貼り絵や習字等、利用者の作品を飾っている。外出もままならない中、リビングで過ごす時間が多いことから、職員は、「レクリエーション委員会」を中心に、利用者がリビングで安らぎを得ながら楽しめる様々な取り組みを工夫し、ストレスを感じないで暮らせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人掛け、2人掛けソファを配置し利用者一人一人のその時にあった気持ちや気分によって可能にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはテレビ、仏壇、家具などを配置し本人が居心地よく過ごせるようにしている。	電動ベッド、クローゼット、エアコン、24時間換気設備が備え付けになっており、思い出の品や馴染みのものを飾り、自分好みの部屋づくりをしている。テレビ、冷蔵庫、仏壇を持ち込んでいる人もいる。ADLの状況で居室変更を行う際には、本人が混乱しないよう配慮しながら実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを使用中かすぐ確認できるように大きな箱物を設置したり自分でできることはお任せしたり自立した生活が送れるように支援している		